



1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について



1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方



既存部

移築部

※文化財保存計画協会様より御提供頂いたパースをもとに加工

修理の方法

- ・ 解体修理 : 全部の材料を取り外して行うもの
- ・ 半解体修理 : 軸部や軒廻りの破損が少ない場合、破損している部分のみを一旦解体して修理や補強などを行うもの
- ・ 屋根葺替修理 : 建物の健全性を保つために取り換えるもの
- ・ 塗装修理 : 経年により剥落、退色、劣化したものを塗り替え、補修、剥落止めを行うもの

修理の方法

- ・ 解体修理 : 全部の材料を取り外して行うもの
- ・ 半解体修理 : 軸部や軒廻りの破損が少ない場合、破損している部分のみを一旦解体して修理や補強などを行うもの
- ・ 屋根葺替修理 : 建物の健全性を保つために取り換えるもの
- ・ 塗装修理 : 経年により剥落、退色、劣化したものを塗り替え、補修、剥落止めを行うもの

→ 痕跡調査により、部材の履歴を追うことができる

「復原/復元」の考え方

一般的に差異はない

もとにかえること。

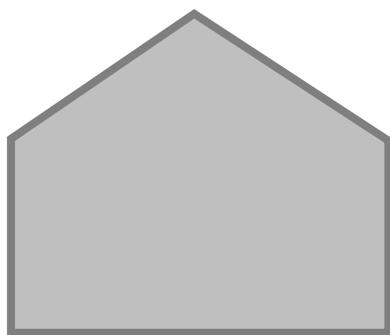
また、もとの位置や状態にもどすこと。

『日本国語大辞典』

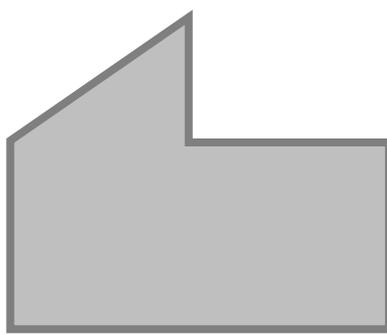
「復原/復元」の考え方

- 考え方1) 現在ある建物を復する場合を「復原」と考える

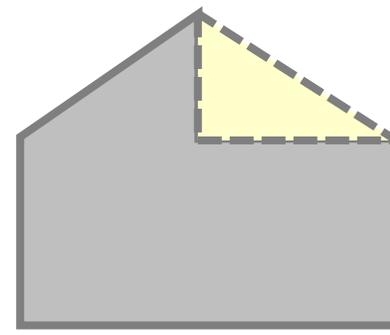
文化財関係では区別される場合がある



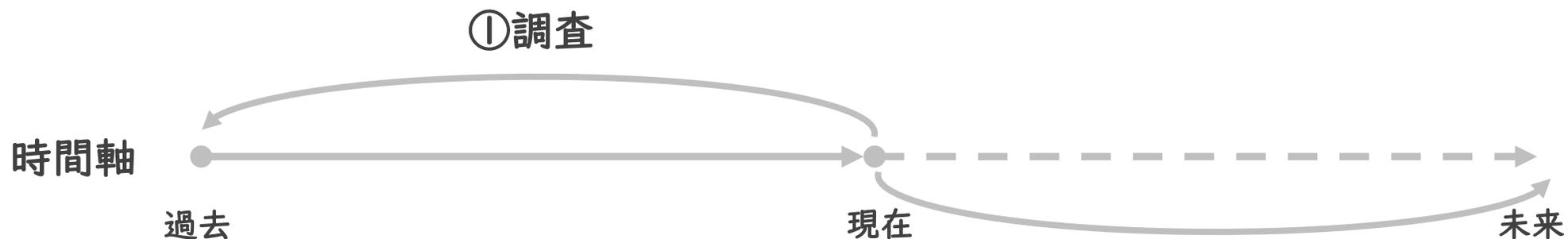
創建時のかたち



現状のかたち



もとのかたち



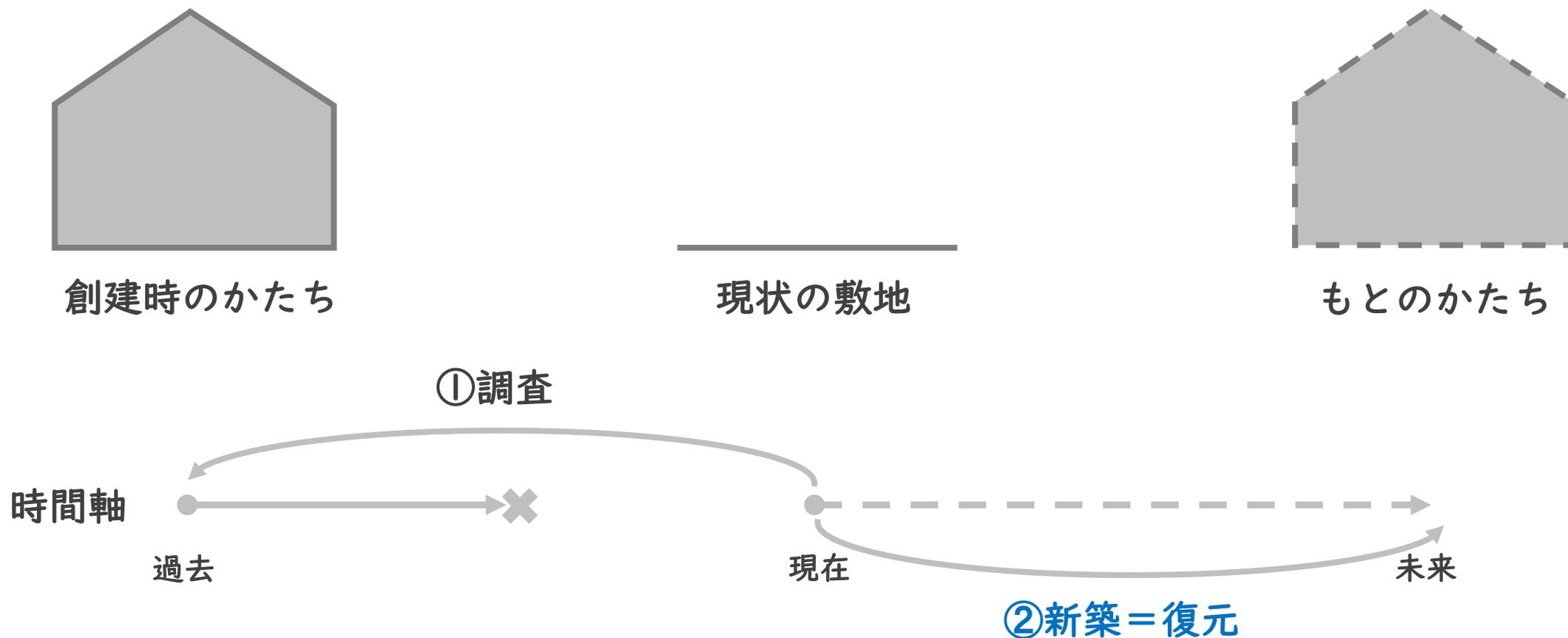
※戻るべき過去は当初だけではないことに注意

②復原を伴う修理 (推定による設計は「整備」)

「復原/復元」の考え方

- 考え方2) 失われて存在しない建物を復する場合を「復元」と考える

文化財関係では区別される場合がある



「復原/復元」の考え方

- ・ 考え方3) 近年、より広い語義である「復元」に狭義な「復原」を包含しようとする考え方もある。

※建築史、考古学、庭園史、美術史など複数の学問領域をつなごうとする「復元学」における定義



1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

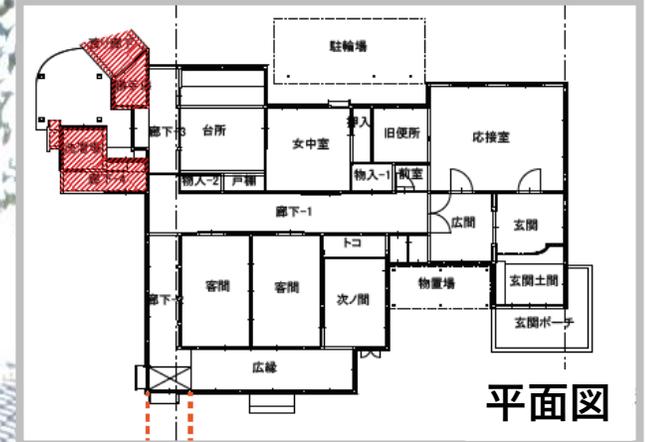
4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について

豊島区に移築されていた荻外荘



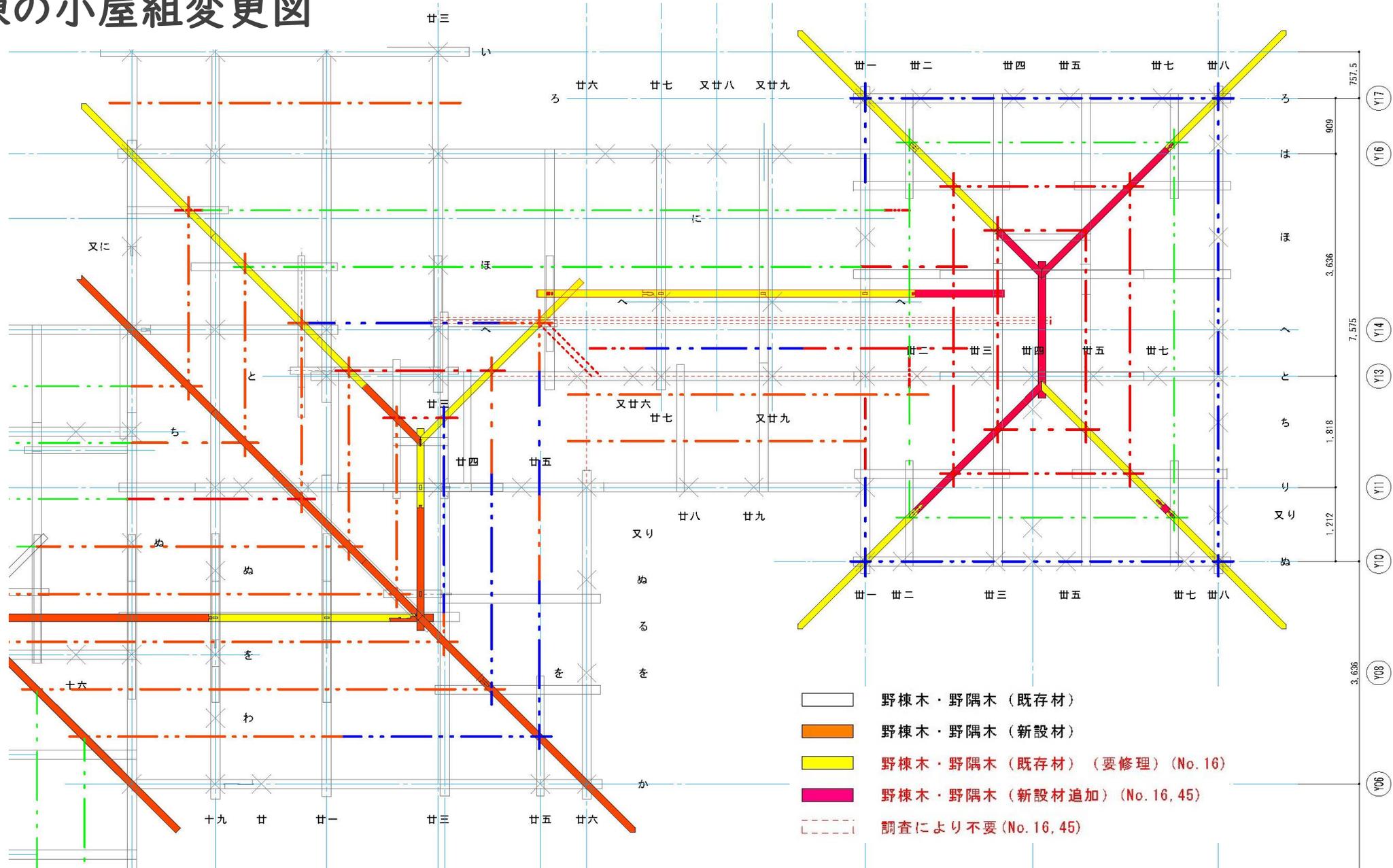
平面図

豊島区に移築されていた荻外荘

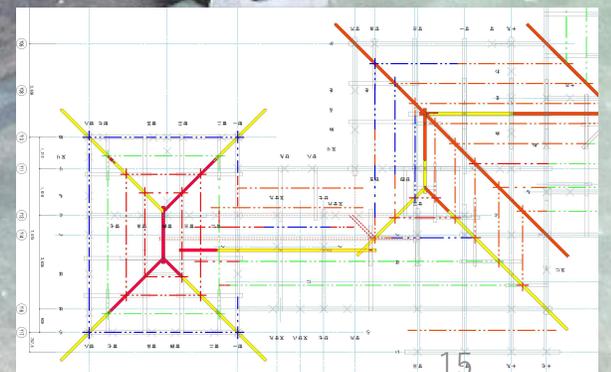


日本建築学会建築博物館蔵

巣鴨棟の小屋組変更図



小屋組の仮組





1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について

3-3_内装の再現について 客間を主として



1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について

3-4_復原の社会的意義

- ・ 文化財建造物の復原に求められるもの

- ①当初の姿に戻すこと

- ②より文化財として価値を有する姿に戻すこと

- ① 参考：太田博太郎「修理と復原」『重要文化財15建造物Ⅳ』付録、毎日新聞社、1974

- ② 参考：後藤治「保存・復原と近年の諸問題」『歴史的建造物の復元設計』

- 木造建築研究フォーラム第19回公開フォーラム資料、1992

荻外荘の場所的価値

- (1) 近衛内閣の政治活動が行われた場所
- (2) 近衛文麿最期の決断の場所
- (3) 荻窪のみどり豊かな屋敷地の景観が残されている場所

荻外荘の建築的価値

- (1) 伊東忠太設計の現存する邸宅建築としての価値
- (2) 建築資料的な価値
- (3) 建物自体が内包している価値

荻外荘の歴史的変遷

居住者	期間	和暦	西暦	建物の履歴
入澤家	第Ⅰ期	昭和2年～5年	1927～30	創建。建物は昭和2年に上棟、竣工。
	第Ⅱ期	昭和5年～12年	1930～37	北側附属屋を改変。台所を増築。昭和12年近衛家に譲渡。
近衛文麿	第Ⅲ期	昭和12年～16年	1937～41	西側別棟と蔵、次の間を増築。（「荻外荘」と命名。）
				正門を西側に移築。
	第Ⅳ期	昭和16年～20年	1941～45	昭和18年頃に書斎・寝室・玄関等の改修。
近衛家	第Ⅳ期	昭和20年～35年	1945～60	
	第Ⅴ期	昭和35年～45年	1960～70	玄関・客間棟を豊島区に移築。北側に玄関を増築。
				西側別棟にも玄関を増築。
第Ⅵ期	昭和45年～	1970～	近衛家による荻外荘の改修	

荻外荘保存活用計画に基づき、この年代の状態に復原予定

3-4_復原の社会的意義

- ・ 復原によって場所や建築がもつ記憶を人々が体験できるようになり、体験を通じて、より豊かな日常を実現していくことができる
- ・ 歴史的な建物を後世に遺していくための伝統技術の継承